

資料 10

報道発表資料
平成27年 6 月15日
気 象 庁第132回火山噴火予知連絡会
全国の火山活動の評価

本日、第131回火山噴火予知連絡会（平成27年 2 月24日）以降の全国の火山活動について検討を行い、結果を以下のとおり取りまとめました。

○全国の主な火山活動

今期間（平成27年 2 月24日～ 6 月15日）、口永良部島、桜島、西之島、阿蘇山、諏訪之瀬島で噴火が発生しました。

口永良部島〔噴火警報（噴火警戒レベル 5）〕については別に「口永良部島の火山活動に関する検討結果」として取りまとめました。

御嶽山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 3）〕については別に「御嶽山の火山活動に関する検討結果」として取りまとめました。

桜島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 3）〕昭和火口の噴火活動は、活発な状態で経過しました。火山灰の噴出量は2015年 1 月から 4 月までで320万トンと多くなっています。噴煙の高さの最高は火口縁上4,300m、大きな噴石は最大 3 合目（昭和火口より1,300～1,800 m）まで達しました。

地殻変動観測では、桜島島内で2014年12月下旬頃から山体の隆起と膨張と考えられる変化が継続しています。今後、多量の火山灰を降らせる噴火が発生する可能性があります。また、始良カルデラ深部では長期的に膨張が進行してきており、引き続き活発な噴火活動が継続すると考えられますので、火山活動の推移に注意してください。昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。

西之島〔火口周辺警報（入山危険）〕西之島では噴石等を放出する噴火や溶岩の流出が続いています。2015年 5 月20日時点で、新たな陸地の面積は約2.6km²になっています。

島の中心から概ね 4 km以内では噴火に警戒してください。

阿蘇山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2）〕2014年11月25日から始まったマグマ噴火は、2015年 5 月21日までは断続的に続いていたことが確認されています。GNSS連続観測では、深部のマグマだまりがあると考えられる草千里を挟むGNSS連続観測の基線で、わずかな伸びの傾向が認められていましたが、2015年 3 月頃から停滞しています。二酸化硫黄の放出量は、1 日あたり800～3,700トンと多い状態で経過しています。

以上のように中岳第一火口では火山活動が停滞する傾向がみられるものの、活発な火山活動が続いていることから、中岳第一火口から概ね 1 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

草津白根山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2）〕2014年 3 月上旬から湯釜付近及びその南側を震源とする火山性地震が増加し、地殻変動観測によると湯釜付近の膨張を示す変動が継続しています。湯釜火口内北東部や北壁及び水釜火口の北から北東側にあたる斜面

で熱活動の活発な状態が継続しています。また、北側噴気地帯のガス組成及び湯釜湖水の化学成分の活動活発化を示す変化が継続しています。

草津白根山では火山活動が活発化しており、今後、小規模な噴火が発生する可能性があることから、湯釜火口から概ね1 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

吾妻山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル2）〕 2015年1月中旬以降、地震回数は減少していますが、5月上旬には一時的な増加や火口側上がりの傾斜変化を伴う火山性微動もみられています。GNSS観測及びSAR干渉解析では、2014年9月頃から一切経山付近の膨張を示す変化がみられています。大穴火口の噴気活動はやや活発な状態が続いており、地熱域のわずかな拡大傾向もみられます。

大穴火口付近では小規模な噴火が発生する可能性がありますので、大穴火口周辺では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石、火山ガスに注意してください。

蔵王山〔火口周辺警報（火口周辺危険）〕 2015年4月に御釜周辺が震源と推定される火山性地震が増加し、火山活動が活発になりましたが、5月下旬以降は地震の少ない状態で経過しています。

2013年以降、火山性地震の増加や火山性微動の発生が観測されており、2014年10月以降はわずかな膨張を示す地殻変動が観測されるなど、長期的にみると火山活動はやや高まった状態にありますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

箱根山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル2）〕 4月26日から火山性地震が増加し、活発な状態が続きました。5月3日以降、大涌谷温泉供給施設で蒸気が継続的に勢いよく噴出しているのを確認したほか、この付近では局所的な隆起を示すと考えられる変化も確認されています。傾斜計、ひずみ計、GNSSにより地殻変動も観測されています。

6月に入ってから地震回数が減少しているものの、地震活動、地殻変動及び活発な蒸気の噴出が継続している間は、大涌谷周辺に影響を及ぼす小規模な噴火が発生する可能性がありますので、大涌谷周辺では弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では火山灰や小さな噴石が風に流されて降るおそれがありますので注意が必要です。

浅間山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル2）〕 火山性地震及び火山性微動が、2014年頃から増加する傾向がみられ、火山性地震は4月下旬頃からさらに増加しています。6月11日には火山ガスの放出量の急増もみられました。

火口から概ね2 kmの範囲では弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。登山者等は地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。また、風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

注) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

各地方の主な活火山の火山活動評価

1. 北海道地方

- ① アトサヌプリ [噴火予報(活火山であることに留意)]
 - ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
- ② 雌阿寒岳 [噴火予報(噴火警戒レベル1、活火山であることに留意)]
 - ・ 4月15日から18日にかけて、ポンマチネシリ火口付近の浅い所を震源とする規模の小さな地震が増加しました。
 - ・ 全磁力連続観測によると、ポンマチネシリ96-1火口近傍の地下では、2015年3月中旬以降熱活動が活発化している可能性が考えられますので、今後の火山活動の推移に注意してください。
- ③ 大雪山 [噴火予報(活火山であることに留意)]
 - ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
- ④ 十勝岳 [噴火予報(噴火警戒レベル1、活火山であることに留意)]
 - ・ 4月4日から7日にかけて火山性地震が一時的に増加するなど、4月以降火山性地震の一時的な増加や火山性微動の発生がしばしば観測されました。
 - ・ 4月9日及び13日に実施した上空からの観測(北海道、国土交通省北海道開発局の協力による)や4月9日に実施した現地調査では、火口や噴煙の状況及び火山ガスの放出量に特段の変化はありませんでした。
 - ・ ここ数年、山体浅部の膨張、大正火口の噴煙量増加、地震増加、火山性微動の発生及び発光現象などが観測されており、長期的にみると火山活動は高まる傾向にありますので、今後の火山活動の推移に注意してください。
- ⑤ 樽前山 [噴火予報(噴火警戒レベル1、活火山であることに留意)]
 - ・ 火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
 - ・ 山頂溶岩ドーム周辺では、1999年以降、高温の状態が続いているので、突発的な火山ガス等の噴出に注意してください。
- ⑥ 倶多楽 [噴火予報(活火山であることに留意)]
 - ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
- ⑦ 有珠山 [噴火予報(噴火警戒レベル1、活火山であることに留意)]
 - ・ 4月19日から21日にかけて、有珠山北側山腹のやや深い所(深さ約6 km付近)を震源とする微小な地震が一時的に増加しましたが、その他の期間は少ない状態で経過しました。
 - ・ その他のデータに特段の変化はみられず、噴火に至る兆候は認められません。
- ⑧ 北海道駒ヶ岳 [噴火予報(噴火警戒レベル1、活火山であることに留意)]
 - ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
- ⑨ 恵山 [噴火予報(活火山であることに留意)]
 - ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

2. 東北地方

① 岩木山 [噴火予報（活火山であることに留意）]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

② 八甲田山 [噴火予報（活火山であることに留意）]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

③ 秋田焼山 [噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

④ 岩手山 [噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）]

- ・ 火山性地震は、期間をとおしては概ね少ない状態で経過しています。
- ・ その他の火山活動は低調に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑤ 秋田駒ヶ岳 [噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）]

めだけ

- ・ 女岳では、2009年から拡大している地熱域が引き続きみられますが、今期間は大きな変化は認められませんでした。
- ・ 地震活動は、一時増加することもありましたが概ね低調で、地殻変動に特段の変化はみられませんでした。地熱活動が続いていますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

⑥ 鳥海山 [噴火予報（活火山であることに留意）]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑦ 栗駒山 [噴火予報（活火山であることに留意）]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑧ 蔵王山 [火口周辺警報（火口周辺危険）] ←平成27年4月13日に噴火予報（活火山であることに留意）を火口周辺警報（火口周辺危険）に引上げ

- ・ 2015年4月7日から5月中旬にかけて、御釜周辺が震源と推定される火山性地震が増加し火山活動が活発な状況となりました。
- ・ このことから、小規模な噴火が発生する可能性があると考えられたことから、気象庁は4月13日に、火口周辺警報（火口周辺危険）を発表しました。
- ・ 5月下旬以降は地震の少ない状態で経過しています。
- ・ 2013年以降、火山性地震の増加や火山性微動の発生が観測されており、2014年10月以降はわずかな膨張を示す地殻変動が観測されるなど、長期的にみると火山活動はやや高まった状態にありますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

⑨ 吾妻山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

- ・ 1月14日に193回を観測した地震回数は、同月中旬以降減少し1日あたり10回前後で経過していましたが、5月3日以降増加し、5月6日には地震の日回数が110回となり、1月14日に次ぐ回数となりました。
- ・ 5月6日に発生した火山性微動では、2月14日同様、微動発生に伴い、火口側上がり傾斜変化がみられました。
- ・ GNSS連続観測及びSAR干渉解析では2014年9月頃から一切経山付近の膨張を示す変化がみられています。
- ・ 大穴火口の噴気活動はやや活発な状態が続いています。また、地熱・噴気域のわずかな拡大傾向がみられています。
- ・ 大穴火口付近では小規模な噴火が発生する可能性がありますので、大穴火口周辺で

は、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。また、大穴火口の風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石、火山ガスに注意してください。

⑩ 安達太良山 [噴火予報(噴火警戒レベル1、活火山であることに留意)]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑪ 磐梯山 [噴火予報(噴火警戒レベル1、活火山であることに留意)]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

3. 関東・中部地方、伊豆・小笠原諸島

① 那須岳 [噴火予報(噴火警戒レベル1、活火山であることに留意)]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

② 日光白根山 [噴火予報(活火山であることに留意)]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

③ 草津白根山 [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

- ・ 湯釜付近及びその南側を震源とする火山性地震が2014年3月上旬から増加しています。2014年8月下旬以降はやや少ない状態で経過していますが、2015年1月以降一時的な地震の増加がみられます。火山性微動は発生していません。
- ・ GNSSによる地殻変動観測では、2014年4月頃から湯釜を挟む基線でわずかな伸びの傾向がみられます。湯釜周辺の傾斜計にも湯釜付近の膨張を示す変動が継続しています。
- ・ 湯釜火口内北東部や北壁及び水釜火口の北から北東側にあたる斜面で熱活動の活発な状態が継続しています。
- ・ 2014年5月頃から湯釜近傍地下の岩石の熱消磁によると考えられる全磁力変化がみられていましたが、7月以降は停滞しています。
- ・ 2014年5月から、北側噴気地帯の硫化水素ガス成分が急減しています。湯釜湖水の温度は例年よりやや高めで推移しており、湖水中のフッ化物イオン・塩化物イオンが増加しています。
- ・ 草津白根山では火山活動が活発化した状態が続いており、今後、小規模な噴火が発生する可能性があることから、湯釜火口から概ね1 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

④ 浅間山 [火口周辺警報(噴火警戒レベル2)] ←平成27年6月11日に噴火警戒レベルを1(活火山であることに留意)から2(火口周辺規制)に引上げ

- ・ 火山性地震及び火山性微動ともに、2010年4月以降やや少ない状態でしたが、2014年頃から増加する傾向がみられています。このうち火山性地震は4月下旬頃からさらに増加しています。
- ・ 二酸化硫黄の放出量は、6月8日の観測で1日あたり500トン、6月11日の観測では1,700トンと急増しています。6月13日の観測でも1日あたり700トン、15日の観測でも1,100トンと多い状態が続いています。
- ・ これらのことから、火口周辺に影響を及ぼす小規模な噴火が発生する可能性があると考えられたことから、気象庁は6月11日に、火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)を発表しました。
- ・ 6月に入ってから火口底の温度の上昇がみられます。

- ・ 山体周辺のGNSSによる地殻変動観測では、2009年秋頃から縮みの傾向がみられていましたが、2015年4月頃から伸びに転じた可能性があります。
- ・ 火口から概ね2 kmの範囲では弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。登山者等は地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。また、風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

⑤ 新潟焼山 [噴火予報(噴火警戒レベル1、活火山であることに留意)]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑥ 弥陀ヶ原 [噴火予報(活火山であることに留意)]

- ・ 弥陀ヶ原近傍の地震は少ない状態で経過しています。
- ・ 立山地獄谷では以前から熱活動が活発でしたが、2012年6月以降の観測で噴気の拡大・活発化や温度の上昇傾向が確認されており、今後の火山活動の推移に注意してください。また、この付近では火山ガスに注意してください。

⑦ 焼岳 [噴火予報(噴火警戒レベル1、活火山であることに留意)]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑧ 乗鞍岳 [噴火予報(活火山であることに留意)]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑨ 御嶽山 [火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制)] ←平成27年3月31日に警報事項を切替
え(噴火警戒レベル3(入山規制)は継続)

- ・ 今期間、噴火は発生しませんでした。
- ・ 剣ヶ峰山頂の南西側の火口列からの噴煙は、高さ火口縁上100～500mで経過しています。
- ・ 地震回数は少ない状態で経過していますが、2014年8月以前の状況には戻っていません。低周波地震は、2月23日に2回、4月10日、5月2日、5月28日に各1回観測していますが、いずれも振幅は小さく、発生前後で他のデータに特段の変化はみられていません。
- ・ 今期間火山性微動は観測されていません。
- ・ 火山ガス(二酸化硫黄)観測によると、3月までは1日あたりおよそ100～300トンとやや少ない状態が続いていましたが、6月の調査で二酸化硫黄の放出量は検出限界以下となりました。
- ・ GNSSによる地殻変動観測では、御嶽山を挟む短い基線で2014年10月から2015年3月頃にかけて縮みの傾向がみられており、山体の収縮を示していた可能性があります。
- ・ 御嶽山の火山活動は低下した状態が継続しており、昨年(2014年)10月中旬以降噴火が発生していないことから、昨年(2014年)9月27日と同程度の噴火の可能性は低下していると考えられます。しかしながら、噴煙活動や地震活動が弱いながらも続いており、昨年(2014年)9月27日より規模の小さな噴火が今後も突発的に発生する可能性は否定できません。
- ・ 火口周辺では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

⑩ 白山 [噴火予報(活火山であることに留意)]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑪ 富士山 [噴火予報(噴火警戒レベル1、活火山であることに留意)]

- ・ 2011年3月15日に山頂の南南西約5km、深さ15kmを震源とする静岡県東部の地震（マグニチュード6.4、最大震度6強）が発生しました。それ以降、その震源から山頂直下付近にかけて地震活動が活発な状況となりました。その後、地震活動は低下しつつも継続しています。
- ・ その他の観測データに異常を示すものはなく、噴火の兆候は認められません。

⑫ 箱根山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）] ←平成27年5月6日に噴火警戒レベルを1（活火山であることに留意）から2（火口周辺規制）に引上げ

- ・ 4月26日から駒ヶ岳の北部で火山性地震が増加し、5月中に活動の中心が駒ヶ岳の直下、北西方向、北方へと移りました。5月15日には、北西方向で地震の日回数が2001年以降で最多の442回となるなど、特に活発な状態となりました。6月に入ってからはいくつか減りつつ継続しています。低周波地震及び火山性微動は発生していません。
- ・ 5月3日頃から、大涌谷温泉供給施設で蒸気が継続的に勢いよく噴出しているのを確認しています。噴出の勢いは6月4日の現地調査で5月に比べやや弱まっています。SAR干渉解析によると、この大涌谷温泉供給施設付近では局所的な隆起を示すと考えられる変化が確認され、地上では亀裂が認められています。隆起には鈍化の傾向がみられます。
- ・ 傾斜計では、4月下旬頃から火山活動に伴う変化が継続していますが、次第に鈍化する傾向を示す観測点もみられます。湯河原鍛冶屋の体積ひずみ計では、4月中旬頃からのわずかな縮みの変化の後、4月下旬頃から伸びの変化に転じて継続しています。
- ・ GNSS連続観測では箱根山を挟む基線で4月頃から小さな伸びが継続しています。
- ・ 火山ガス成分によると新たなマグマの浅部への貫入は認められていません。
- ・ 箱根山の火山活動は活発な状態が続いていましたが、6月に入ってから地震回数が減少しています。ただし、地震活動、地殻変動及び活発な蒸気の噴出が継続している間は、大涌谷周辺に影響を及ぼす小規模な噴火が発生する可能性があります。大涌谷周辺では小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では火山灰や小さな噴石が風に流されて降るおそれがありますので注意が必要です。

⑬ 伊豆東部火山群 [噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑭ 伊豆大島 [噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）]

- ・ 地殻変動観測によると、短期的な膨張や収縮があるものの、長期的には、地下深部へのマグマ供給によると考えられる島全体の膨張傾向が継続しています。
- ・ その他の観測データには特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。長期的には山体の膨張が継続していることから、今後の火山活動に注意してください。

⑮ 新島 [噴火予報（活火山であることに留意）]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑯ 神津島 [噴火予報（活火山であることに留意）]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑰ 三宅島 [噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）] ←平成27年6月5日に噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）に引下げ

- ・ 噴火は2013年1月22日を最後に発生していません。
- ・ 噴煙は白色で、高さは火口縁上100～500mで経過しています。
- ・ 山頂浅部を震源とする地震は概ね少ない状態で経過しました。
- ・ 二酸化硫黄の放出量は長期的には緩やかな減少傾向にあり、2014年以降は1日あたり500トン以下で経過しています。
- ・ 以上のことから、噴火の兆候が認められなくなったと判断し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）に引下げました。
- ・ なお、GNSSによる観測では、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなり、2013年頃から停滞しています。一方、島内の長距離の基線で2006年頃から伸びの傾向がみられるなど、山体深部の膨張を示す地殻変動が継続しています。
- ・ 主火孔における噴煙活動及び火山ガスの放出が継続していることから、規模の小さな噴出現象が突発的に発生する可能性があります。

⑱ 八丈島 [噴火予報（活火山であることに留意）]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑲ 青ヶ島 [噴火予報（活火山であることに留意）]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑳ 西之島 [火口周辺警報（入山危険）]

- ・ 2013年11月20日に西之島の南東海上で確認された噴火では、噴石等を放出する爆発的噴火や溶岩の流出により新島が拡大し、2013年12月26日には西之島旧島と一体となりました。
- ・ その後も噴火活動は継続し、新たに形成された陸地（西之島旧島と接続した新島部分）の拡大が確認されており、西之島旧島のほとんどを埋没させています。2015年5月20日時点で、新たに形成された陸地の面積は約2.6km²になっています。
- ・ 西之島では噴火が継続しており、島の中心から概ね4km以内では噴火に警戒してください。

㉑ 硫黄島 [火口周辺警報（火口周辺危険）]

- ・ 島北西部の井戸ヶ浜で、5月22日及び24日に水蒸気の噴出を確認しています。
- ・ 島西部のミリオンダラーホール（旧火口）では、2012年2月以降ごく小規模な水蒸気爆発が度々発生していますが、2013年4月12日以降、噴火は確認されていません。
- ・ 地震活動はやや多い状態で経過しています。火山性微動は時々観測されています。
- ・ GNSSによる地殻変動観測では、2014年12月頃から隆起の傾向がみられ、2015年1月中旬頃から隆起速度が上がっています。4月中旬から西向きの変動速度が上がっています。なお、島内南北方向の伸びの傾向は継続しています。
- ・ 硫黄島では火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、従来から小規模な噴火が発生した地点及びその周辺では警戒してください。

㉒ 福岡ノ場 [噴火警報（周辺海域警戒）]

- ・ 長期間にわたり変色水が確認されており、小規模な海底噴火が発生すると予想されますので、周辺海域では警戒してください。

4. 九州地方・南西諸島

① 鶴見岳・伽藍岳 [噴火予報（活火山であることに留意）]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

② 九重山 [噴火予報(噴火警戒レベル1、活火山であることに留意)]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
- ・ GNSS観測によると、わずかな伸びの傾向がみられていますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

③ 阿蘇山 [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

- ・ 中岳第一火口では2015年5月21日まで断続的に噴火が続き、4月23、24及び26日には、灰白色の噴煙が火口縁上1,500mまで上がりました。3月2日、4月21日及び4月24日の夜間に実施した現地調査では、ストロンボリ式噴火を観測し、赤熱した噴石が断続的に火口縁上200mの高さまで上がるのを確認しました。また、夜間に遠望カメラ(高感度カメラ)で火映を時々観測しました。
- ・ 中岳第一火口周辺で観測された降灰量は、阿蘇山特別地域気象観測所では、3月2～31日に2,442g/m²、4月2～30日に1,868g/m²、阿蘇市役所では、3月2～31日に175g/m²、4月2～30日に26g/m²でした。
- ・ 現地調査によると2014年11月25日から2015年5月11日までの噴火による火山灰の総量は210万トン程度と概算されています。
- ・ 噴出したスコリア等の分析によると、マグマの組成は1970、1980年代の噴出物と類似しています。
- ・ 二酸化硫黄の放出量は、1日あたり800～3,700トンと多い状態でした。
- ・ 火山性微動は概ね振幅の大きな状態で継続しました。
- ・ 5月3日22時04分に、継続時間約5分間の振幅の大きな火山性微動が発生し、南阿蘇村中松で震度1を観測しました。火山性微動により震度1以上を観測したのは、1995年7月4日(震度1)以来です。翌日(4日)に実施した現地調査では、火口から北東約4kmの阿蘇市一の宮町宮地で降灰を確認しました。5月5日の現地調査では、中岳第一火口内の141火孔の南側が陥没していることを確認しました。
- ・ 5月8日12時58分に、中岳第一火口付近のごく浅い所を震源とする地震が発生し、南阿蘇村中松で震度3を観測しました。地震の前後で噴煙や地殻変動の状況に特段の変化は認められませんでした。
- ・ 傾斜計では、5月8日の地震に伴って、わずかに火口方向が下がる変化が認められました。
- ・ GNSS連続観測では、深部にマグマだまりがあると考えられている草千里を挟む基線の伸びは、2015年3月頃から停滞しています。
- ・ 以上のように、阿蘇山では火山活動が停滞する傾向がみられるものの、活発な火山活動が続いていますので、中岳第一火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。火口周辺では強風時に小さな噴石が1kmを超えて降るため、風下側では火山灰だけでなく小さな噴石にも注意してください。
- ・ 南阿蘇村吉岡の噴気活動はやや活発な状態が続いており、引き続き噴気活動に注意してください。

④ 雲仙岳 [噴火予報(噴火警戒レベル1、活火山であることに留意)]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
- ・ 長期的には2010年頃から火山性地震の活動がやや活発となっていますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

⑤ 霧島山

新燃岳 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

- ・ 新燃岳では、2011年9月7日を最後に噴火は発生していません。
- ・ 火口内に蓄積された溶岩のわずかな体積膨張は続いています。火口内南東側の火孔の形状にも特段の変化はみられませんでした。しかし、火口にたまった溶岩内部には依然高温状態の部分もあると考えられます。
- ・ 3月下旬から4月上旬にかけて新燃岳火口直下を震源とする火山性地震がやや増加し、4月中旬以降もこれまでよりやや多い状況で経過しました。3月頃から振幅のやや大きなBH型地震が増加しています。
- ・ 3月1日に継続時間1分未満の振幅の小さな火山性微動が1回発生しました。火山性微動を観測したのは2012年2月1日以来です。
- ・ GNSS観測によると、新燃岳の北西数km（えびの高原付近）の地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2013年12月頃から伸びの傾向がみられましたが、2015年1月頃から停滞しています。
- ・ 新燃岳では火口周辺に影響のある小規模な噴火が発生する可能性がありますので、新燃岳火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。噴火時には、風下側では火山灰だけではなく小さな噴石（火山れき）が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。降雨時には泥流や土石流に注意してください。

御鉢 [噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

えびの高原（硫黄山）周辺 [噴火予報（活火山であることに留意）] ←平成27年5月1日に火口周辺警報（火口周辺危険）から噴火予報（活火山であることに留意）に引下げ

- ・ えびの高原（硫黄山）周辺では、2013年12月頃から火山性地震の多い状態が続いていましたが、2015年4月頃から少ない状態となっています。
- ・ 2014年8月20日には、硫黄山付近が震源とみられる火山性微動が発生しましたが、その後は発生していません。
- ・ GNSS連続観測では、えびの高原（硫黄山）周辺の一部の基線で、2013年12月頃からみられた地盤の伸びの傾向は、2015年1月頃から停滞しています。
- ・ 火山活動によると考えられる傾斜変動は認められません。
- ・ 噴気は認められず、赤外熱映像装置による観測では熱異常域は認められません。硫黄山周辺の全磁力繰り返し観測でも、地下の熱活動の高まりは認められません。
- ・ 以上のことから、えびの高原（硫黄山）周辺の火山活動は低下しており、硫黄山周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められなくなったと判断し、5月1日10時00分に噴火予報を発表し、火口周辺警報（火口周辺危険）から噴火予報（活火山であることに留意）に引下げました。
- ・ 活火山であることから、規模の小さな噴出現象が突発的に発生する可能性がありますので、留意してください。

⑥ 桜島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）]

- ・ 昭和火口の噴火活動は、活発な状態で経過しました。
- ・ 今期間（2015年2月から5月31日）の爆発的噴火の回数は547回で、大きな噴石が3合目まで達した噴火が10回発生しました。噴煙の高さが火口縁上3,500m以上の噴火は15回発生し、最高は火口縁上4,300m（5月21日10時20分の爆発的噴火）でした。ごく小規模な火砕流が3回発生し、昭和火口の東および南東側へ約500m～600m流下しました。

- ・ 南岳山頂火口では、5月12日にごく小規模な噴火が発生しました。
- ・ 鹿児島県の降灰観測データをもとに解析した桜島の火山灰の月別の噴出量は、2月及び3月はそれぞれ約70万トンとやや多い状況が続き、4月は約120万トンと多くなりました。
- ・ 3月31日07時27分に発生した地震（M2.8：暫定値）では、鹿児島市内で震度1を観測しました。この地震の震源は、桜島南西部の海拔下8km付近で、同付近の海拔下8～10km付近に分布するA型地震が3月31日から4月2日にかけて一時的に増加しました。
- ・ 二酸化硫黄の放出量は、1日あたり400～5,400トンと概ね多い状態でした。
- ・ 桜島島内の伸縮計・傾斜計・GNSS連続観測では、2014年12月下旬頃から山体の隆起と膨張と考えられる変化が継続しています。この山体の膨張・隆起により、2012年7月24日及び2013年8月18日以上の多量の火山灰を噴出する噴火が発生する可能性があります。
- ・ GNSS連続観測では、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）では、2013年6月頃から停滞していましたが、2015年1月から伸びの傾向がみられます。
- ・ 火山灰の放出量と地殻変動量から導いた桜島直下へのマグマの供給量は、2015年1月ごろから増加する傾向が続いています。
- ・ 以上のように、桜島では引き続き活発な噴火活動が継続すると考えられますので、火山活動の推移に注意してください。
- ・ 昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が遠方まで風に流されて降るため注意してください。爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流に注意してください。

⑦ 薩摩硫黄島〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
- ・ 硫黄岳火口では噴煙活動が続いており、火山灰等の噴出する可能性があります。また、火口付近では火山ガスに注意してください。

⑧ 口永良部島〔噴火警報（噴火警戒レベル5、避難）〕 ←平成27年5月29日に噴火警戒レベルを3（入山規制）から5（避難）に引上げ

- ・ 口永良部島では5月29日09時59分に爆発的噴火が発生しました。噴火と同時に大きな噴石が火口周辺に飛散し、火砕流はほぼ全方位に流れ、北西側（向江浜地区）では海岸まで達しました。噴煙が火口縁上9000m以上上昇し東南東に流れました。今回の噴火は2014年8月3日の噴火を超える規模と考えられます。
- ・ 新岳火口の火口壁の一部は消失していましたが、西側割れ目及び南側割れ目の形状に大きな変化はありませんでした。
- ・ 噴火発生に伴い火山性微動と山頂側が沈降する傾斜変化が観測されました。
- ・ 5月23日08時00分に、島内のごく浅いところを震源とする地震（M2.3：暫定値）が発生し、島内で震度3を観測しました。その後A型地震が一時的に増加しました。
- ・ 噴火前と比較して、新岳火口内及び火口縁で一部形状の変化が認められた他、火口底が深くなっていることが確認されました。
- ・ 噴火前には、現地調査及び上空からの観測で、新岳火口縁の西側及び南西斜面の噴気地帯で熱異常域を継続的に確認しており、西側の熱異常域では3月頃から明らかな温度の上昇が認められていました。

- ・ 3月24日の夜間に、遠望カメラ（高感度カメラ）で火映を観測しました。口永良部島で火映を観測したのは初めてです。火映はその後時々観測していましたが、噴火発生後は観測されていません。
- ・ 火山ガスの観測によると、2014年8月3日以降、二酸化硫黄の放出量がやや多くなり、2014年11月から2015年5月上旬までは1日あたり400～4,200トンと多い状態で経過していましたが、5月中旬には1,200トン以下、5月下旬には300～700トンと、噴火前は次第に減少していました。噴火直後の観測では、1日あたり3,800トンで、その後減少しましたが1日あたり1,200トンと多い状態です。
- ・ GNSS連続観測では、2014年12月頃から一部の基線にわずかな伸びの傾向が認められていましたが、2月頃から鈍化しています。
- ・ 噴火後の噴煙の状態、二酸化硫黄放出量、及び地震活動は、噴火前の地震活動が高まる以前と同程度で継続しています。今後も今回と同程度の規模の噴火が発生する可能性があるため、厳重な警戒が必要です。
- ・ 噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。降雨時には土石流の可能性がありますので注意してください。

⑨ 諏訪之瀬島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

- ・ 御岳火口では、爆発的噴火が14回発生するなど活発な噴火活動が継続しました。
- ・ 噴煙の高さの最高は、4月11日の爆発的噴火に伴う火口縁上1,700mでした。また、同火口では夜間に遠望カメラ（高感度カメラ）で火映を時々観測しました。
- ・ 十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、2月26日に切石港（御岳の南約3.5km）で、4月11日に集落（御岳の南南西約4km）で降灰が確認されました。
- ・ 火山性地震はやや少ない状態で経過しました。火山性微動は、断続的に発生しました。
- ・ 今後も火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

注) 噴火警戒レベルは平成27年6月15日現在、30火山で運用しています。

全国の活火山の噴火警報及び噴火予報発表状況

地方	火山名	現 在 (ここで示すレベルは噴火警戒レベルである)	噴火警報及び噴火予報の発表履歴
北海道地方	アトサヌプリ	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	雌阿寒岳	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日 噴火予報（平常） 2008年9月29日 火口周辺警報（火口周辺危険） 2008年10月17日 噴火予報（平常） 2008年11月17日 火口周辺警報（火口周辺危険） 2008年12月16日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2009年4月10日 噴火予報（レベル1、平常）
	大雪山	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	十勝岳	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日 噴火予報（平常） 2008年12月16日 噴火予報（レベル1、平常） 2014年12月16日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2015年2月24日 噴火予報（レベル1、平常）
	樽前山	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	倶多楽	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	有珠山	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日 噴火予報（平常） 2008年6月9日 噴火予報（レベル1、平常）
	北海道駒ヶ岳	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	恵山	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
東北地方	岩木山	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	八甲田山	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	秋田焼山	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日 噴火予報（平常） 2013年7月25日 噴火予報（レベル1、平常）
	岩手山	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	秋田駒ヶ岳	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日 噴火予報（平常） 2009年10月27日 噴火予報（レベル1、平常）
	鳥海山	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	栗駒山	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	蔵王山	火口周辺警報（火口周辺危険）	2007年12月1日 噴火予報（平常） 2015年4月13日 火口周辺警報（火口周辺危険）
	吾妻山	火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常） 2014年12月12日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）
	安達太良山	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日 噴火予報（平常） 2009年3月31日 噴火予報（レベル1、平常）
関東・中部地方	磐梯山	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日 噴火予報（平常） 2009年3月31日 噴火予報（レベル1、平常）
	那須岳	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日 噴火予報（平常） 2009年3月31日 噴火予報（レベル1、平常）
	日光白根山	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	草津白根山	火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常） 2009年4月10日 噴火予報（レベル1、平常）切替 2014年6月3日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）
	浅間山	火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常） 2008年8月8日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2009年2月1日 火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2009年2月3日 火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替 2009年4月7日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2010年4月15日 噴火予報（レベル1、平常） 2015年6月11日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）

	火山名	現 在 (ここで示すレベルは噴火警戒レベルである)	噴火警報及び噴火予報の発表履歴
関東・中部地方・伊豆・小笠原諸島	新潟焼山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日 噴火予報（平常） 2011年３月31日 噴火予報（レベル１、平常）
	弥陀ヶ原	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月１日 噴火予報（平常）
	焼岳	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日 噴火予報（平常） 2011年３月31日 噴火予報（レベル１、平常）
	乗鞍岳	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月１日 噴火予報（平常）
	御嶽山	火口周辺警報（レベル３、入山規制）	2007年12月１日 噴火予報（平常） 2008年３月31日 噴火予報（レベル１、平常） 2014年９月27日 火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2014年９月28日 火口周辺警報（レベル３、入山規制）切替 2015年１月19日 火口周辺警報（レベル３、入山規制）切替 2015年３月31日 火口周辺警報（レベル３、入山規制）切替
	白山	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月１日 噴火予報（平常）
	富士山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日 噴火予報（レベル１、平常）
	箱根山	火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）	2007年12月１日 噴火予報（平常） 2009年３月31日 噴火予報（レベル１、平常） 2015年５月６日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）
	伊豆東部火山群	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日 噴火予報（平常） 2011年３月31日 噴火予報（レベル１、平常）
	伊豆大島	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日 噴火予報（レベル１、平常）
	新島	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月１日 噴火予報（平常）
	神津島	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月１日 噴火予報（平常）
	三宅島	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日 火口周辺警報（火口周辺危険） 2008年３月31日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2015年６月５日 噴火予報（活火山であることに留意）
	八丈島	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月１日 噴火予報（平常）
	青ヶ島	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月１日 噴火予報（平常）
	西之島	火口周辺警報（入山危険）	2007年12月１日 噴火予報（平常） 2013年11月20日 火口周辺警報（火口周辺危険） 2014年６月３日 火口周辺警報（入山危険） 2014年６月11日 火口周辺警報（入山危険）切替
	硫黄島	火口周辺警報（火口周辺危険）	2007年12月１日 火口周辺警報（火口周辺危険）
	福徳岡ノ場	噴火警報（周辺海域警戒）	2007年12月１日 噴火警報（周辺海域警戒）
九州地方・南西諸島	鶴見岳・伽藍岳	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月１日 噴火予報（平常）
	九重山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日 噴火予報（レベル１、平常）
	阿蘇山	火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）	2007年12月１日 噴火予報（レベル１、平常） 2011年５月16日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2011年６月20日 噴火予報（レベル１、平常） 2013年９月25日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2013年10月11日 噴火予報（レベル１、平常） 2013年12月27日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2014年３月12日 噴火予報（レベル１、平常） 2014年８月30日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）
	雲仙岳	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日 噴火予報（レベル１、平常）
	霧島山（新燃岳）	火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）	2007年12月１日 噴火予報（レベル１、平常） 2008年８月22日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2008年10月29日 噴火予報（レベル１、平常） 2010年３月30日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）

	火山名	現 在 (ここで示すレベルは噴火警戒レベルである)	噴火警報及び噴火予報の発表履歴
九州地方・南西諸島			2010年4月16日 噴火予報（レベル1、平常） 2010年5月6日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2011年1月26日 火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2011年1月31日 火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替 2011年2月1日 火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替 2011年3月22日 火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替 2012年6月26日 火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替 2013年10月22日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）
	霧島山（御鉢）	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月1日 噴火予報（平常） 2014年10月24日 火口周辺警報（火口周辺危険） 2015年5月1日 噴火予報（平常）
	霧島山	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	桜島	火口周辺警報 （レベル3、入山規制）	2007年12月1日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2008年2月3日 火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2008年2月20日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2008年4月8日 火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2008年7月14日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2008年7月28日 火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2008年8月28日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2009年2月2日 火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2009年2月19日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2009年3月2日 火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2009年3月10日 火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替 2009年4月24日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2009年7月19日 火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2010年9月30日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2010年10月13日 火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2012年3月12日 火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替 2012年3月21日 火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替
	薩摩硫黄島	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2012年11月29日 噴火予報（レベル1、平常） 2013年6月4日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2013年7月10日 噴火予報（レベル1、平常）
	口永良部島	噴火警報（レベル5、避難）	2007年12月1日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2008年1月25日 噴火予報（レベル1、平常） 2008年9月4日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2008年10月27日 火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2009年3月18日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2009年8月4日 噴火予報（レベル1、平常） 2009年9月27日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2009年10月30日 噴火予報（レベル1、平常） 2011年12月15日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2012年1月20日 噴火予報（レベル1、平常） 2014年8月3日 火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2014年8月7日 火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替 2015年5月29日 噴火警報（レベル5、避難）
	諏訪之瀬島	火口周辺警報 （レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）

注）噴火警報及び噴火予報の発表履歴は、2007年12月1日以降のものを記載しています。

2015年5月18日から（平常）は（活火山であることに留意）に変更しています。

上記以外の活火山では2007年12月1日に噴火予報（平常*）を発表し、その後、予報事項に変更はありません。

地 方	火 山 名
北海道地方	知床硫黄山、羅臼岳、天頂山**、摩周、雄阿寒岳**、丸山、利尻山、恵庭岳、羊蹄山、ニセコ、渡島大島、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山
東北地方	恐山、十和田、八幡平、鳴子、肘折、沼沢、燧ヶ岳
関東・中部地方 及び伊豆・小笠原諸島	高原山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、アカンダナ山、利島、御蔵島、ベヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、嬬婦岩、海形海山、海德海山、噴火浅根、北福德堆、南日吉海山、日光海山
中国・九州地方 及び南西諸島	三瓶山、阿武火山群、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄島、西表島北北東海底火山

* 2015年5月18日から（平常）は（活火山であることに留意）に変更しています。

** 天頂山と雄阿寒岳は2011年6月7日に活火山として追加し、噴火予報（平常）を発表しました。

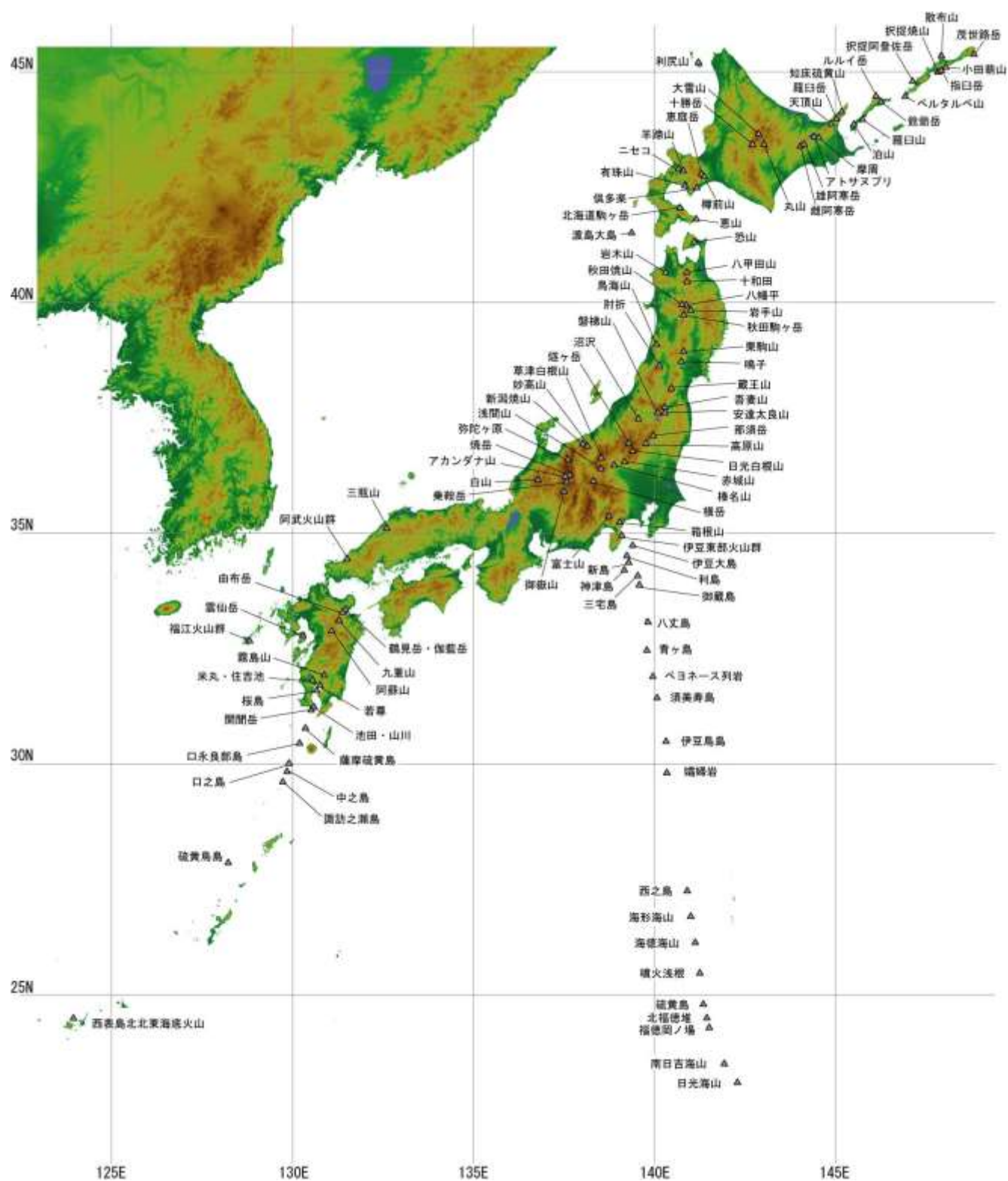


図 全国の活火山分布